

特色ある学校

資格取得で活性化 「教育奨励賞」受賞 —— 原動力となった化学工業部 地域にも貢献 ——

宮崎県立都城工業高等学校長 押川 豊
化学工業科主任 有島 義春

1. 本校の概要

本校は、昭和19年4月、宮崎県の南西部に位置する都城市に機械科、建築科、土木科、航空機科の4学科をもって、宮崎県立都城工業学校として創立された。

昭和23年4月、学制改革により宮崎県立都城都島高等学校として発足し、昭和36年、宮崎県立都城都島高等学校から宮崎県立都城工業高等学校として分離独立した。以後、多くの学科が新設され、現在では地域中学生の減少により、機械科、情報技術科（平成17年度募集停止）、情報制御システム科（平成17年度新設）、電気科、建設システム科、化学工業科、インテリア科の7学科20学級の体制である。平成16年度創立60周年を迎え、卒業生は1万6千有余名を数え、県内はもちろん全国及び海外各地の各界で活躍している。

2. 資格取得で教育奨励賞受賞

1) 取組のねらいと状況

昭和62年度当時、生徒の多様化が進み、学習意欲の低下、無気力な生徒の増加で授業の維持が困難な状況であった。そこで

- ①高まる進学志向にも対応できる学科
- ②部活動に励み、充実した高校生活を送れる学科
- ③各種の資格を取得させ、経済的に安定した

生活が営める基礎づくりができる学科

この目標を実現させるために、資格取得教育を中心に据え、化学工業科の職員が一丸となって、生徒指導に当たった。

取り組んだ資格のすべてにわたり、高い合格率、合格者数を達成し、県内はもちろん全国的にも注目された。特に環境教育の一環として取り入れた超難関資格である公害防止管理者は、平成元年から平成七年まで高校生年代の合格者数では全国一の座を確保した。しばらく低迷期間があったが、再復活し、平成13年度から再び継続して合格者が誕生し始め、平成16年度には全国一の合格者数に再び咲いた。また、進学志向も高まり、平成3年から今日まで宮崎大学をはじめ、国立大学に毎年合格者を送り出し、進学にも強さを誇っている。いま新たに資格取得指導のノウハウを生かし、学科の枠を越えた資格取得指導に取り組み、全校規模の資格取得ブームを引き起こしている。

本校の実践は、日本工業化学教育研究全国大会、九州大会、あるいは実教出版の工業教育機関誌、マスコミ等を通して、県内外に紹介された。

2) 教育奨励賞受賞

この18年間に及ぶ一貫した取組と地域への貢献について高い評価をいただき、平成17年

10月24日、時事通信社主催（文部科学省後援）の第二十一回「教育奨励賞」の優秀賞を東京本社にて、文部科学省審議官以下（中山前文部科学大臣公務のため欠席）、文部科学省の多くの方々のご臨席の下、賞をいただいた。この賞は、各県の教育委員会の推薦で公私立の幼、小、中、高からの応募があり、創造性に富み特色ある教育の実践に顕著な業績を上げた学校に「教育奨励賞」を贈り、もって学校教育の一層の充実を図る狙いがある。

受賞校については、「優秀校」本校を含む2校（1校に文部科学大臣賞）副賞百万円、「優良校」3校、副賞拾万円、「努力賞」20校であった。

3. 資格取得をコアとした学校活性化

1) 多様化した学科が、短期間に活気ある学科へ

化学工業科は、本校でもっとも多様化した学科で、資格といえは二級ボイラー技士に数名合格する程度であった。

そこで、生徒のやる気を喚起し、自信と誇りを回復するために、二級ボイラー技士に取り掛かった。当初は、嫌がる生徒一人一人を説得して集めた2～3年生の42名を励まし、19名が合格した。あの化学工業科の生徒が学科始まって以来の大量合格をし、そのことが



第二十一回「教育奨励賞」授賞式

引き金となって、昭和63年には29名、そして平成2年には40名と、合格率九州一を達成した。また、この年から女子も受験ができるようになり、当時としては、めずらしくて地元紙が本県第一号のボイラーウーマン誕生と大きく報道した。

さらに、昭和63年度には法令が改正され、乙種第四類危険物取扱者に高校生も受験ができるようになり、一度に全学年全員に受験させて107名合格、これまた九州一の合格率を達成した。

超難関資格の公害防止管理者は、昭和62年ゼロ、昭和63年ゼロ、もうこれまでと覚悟をきめた平成元年に14名合格、平成2年にはさらに24名と大量合格し、以後平成7年まで全国一の合格者を出している。平成13年にはダイオキシン類関係公害防止管理者の合格を出し、平成14年には水質関係4種公害防止管理者に4名、15年には3名、16年には4名、17年には5名、大学卒業者でも合格困難な水質関係2種公害防止管理者に平成16年1名、平成17年2名の合格者を出した。

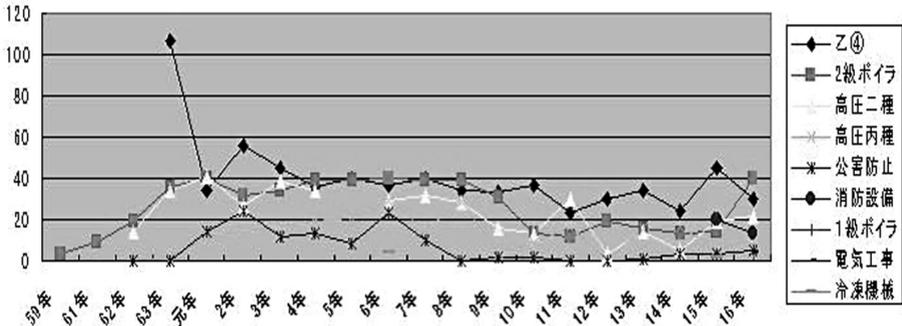
また、一級ボイラー技士についても平成16年4月の法改正により高校生の受験が可能となり、同年3名の九州初の合格者を出した。

2) 宮崎県教育委員会より資格取得で表彰

平成9年度には、二級ボイラー技士および乙種危険物取扱者に連続3年間全員合格の快挙により、これまでの取組に対し、宮崎県教育委員会より表彰状を戴いた。

3) 連続14年間継続して国立大学へ合格

資格取得教育の推進とともに学力が向上した。全国工業高等学校長協会の工業標準テストで全国トップレベルになった。資格と学力向上の成果を生かして、毎年国立大学に合格者がでる進学学科へと変貌をとげた。（スポ



化学工業科の資格取得推移

ーツ推薦は除く)

4) 化学工業部の育成と大学との連携

資格取得で先駆的な取組を担っている部員の育成のため、大学の主催する各種研究講座、講演に積極的に参加している。

①平成14年 崇城大学で木葉の蒸散速度の研究発表

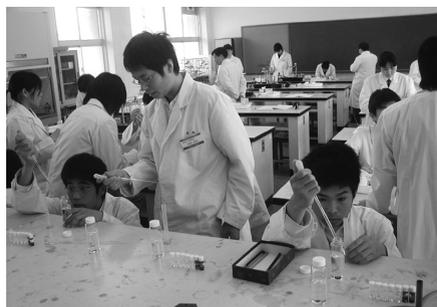
②平成15年 崇城大学で燃料電池等の実験に部員および保護者参加

③平成16年 宮崎大学の化学工学学会主催講演に参加し、大学主催のものづくり競技商品開発競争「独自のカイロをつくろう」コンテストにおいては優秀賞受賞

④平成14年～平成16年 宮崎県高等学校教育研究会工業部会主催のものづくりコンテスト

	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	計
宮崎大				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	15
佐賀大			1	1		1		1	1		1	1					7
豊橋科学大								1	1		1						3
長岡科学大								1						1			2
富山大								1									1
都城高専	1								1								2
川内テクノ					1												1
☆国立合計	1		1	2	2	2	1	5	4	1	3	2	1	3	2	1	31
☆私立四大	4	7	4	4	6	4	4	4	2	2	2	4	2	1	3	4	57
合計	5	7	5	6	8	6	5	9	6	3	5	6	3	4	5	5	88

化学工業科の国公立大の進学推移



宮崎大学主催マニファクチュアリング
コンテスト「実験風景」

「化学分析部門」競技三年連続優勝

⑤平成17年宮崎大学・宮崎県理科化学懇談会主催のマニファクチュアリングコンテスト「高性能な活性炭電池をつくろう」に県内の高校の科学部が集まり本校からは2チーム参加し、商品開発を競い研究発表を行った。

5) 学科の枠を越えた資格取得教育

平成16年度から、学科の枠を越えた資格取得教育の充実を模索している。まず電気科と化学工業科が連携し、電気工事士を化学工業科に、化学工業科が危険物取扱者、消防設備士、冷凍機械を電気科にと相互支援に取り組み、他の学科との連携の輪が広がり始めた。平成17年は第2種電気工事士に化学工業部18名が挑戦し、一次の学科試験17名合格、二次の実技試験に13名の合格者を出した。

6) 地域への貢献

化学工業科では平成15年度から社会人を対象に「あなたもキャリアアップ」と題して夜間、地域の方々に「乙種第4類危険物取扱者試験の直前講座」を実施している。地域には自衛隊の駐屯地やJAがあり、多くの方が受講をされ喜ばれた。これまでのアンケートに、夜間は仕事の都合で時間の確保が厳しいという人が多く、平成17年度は、日曜日に実施し



社会人講座「あなたもキャリアアップ」

た。

4. おわりに

昭和62年度から取り組んできた資格取得教育をコアとした学校活性化の取組は、もっともマイナーな学科の活性化が学校全体の活性化へと波及し、想像もしていなかった第2種電気工事士の資格を、化学工業科の生徒が、逆に公害防止管理者の資格を他学科の生徒が取得できるという学科の枠を越えた資格取得教育の推進へと発展した。教師、生徒そして保護者の関心を高め、急速に資格取得ブームの波が大きく広がり、活気ある学校へと変容し始めた。

残された課題として地域社会への貢献がある。平成15年度から実施している社会人を対象としたキャリアアップのための資格取得夜間講座は、たいへん好評で、県内各地から多数の参加者があった。今年度は、これまでのアンケートから土・日の要望が強かったため日曜日に実施した。さらに資格の種類を増やし、積極的に地域に働きかけていく予定である。現在、保護者にどんな資格の講座を開設してほしいかも調査中である。

この取組で、本校に対する地域社会の信頼が一層深まることを期待している。